

に対して検討を行なつたので、われわれの長母指伸筋腱皮下断裂に対する手術法と共に報告した。

#### 6. ニトログリセリンあるいはトリメタファンによる全身麻酔中の血圧管理

(麻酔科) ○椋棒由紀子・川真田美和子・  
山村 佳江・藤田 昌雄

最近、ニトログリセリン(以下 NTG)が静脈内投与されるようになり、全身麻酔中の血圧の調節に有効であることが認められている。

私共が、術中高血圧発作の治療に NTG を用いた症例、および人為的低血圧麻酔に NTG あるいはトリメタファンを用いた症例についての結果を報告する。

術中に高血圧を来たし、治療と必要とした症例は104例、平均年齢は62.8歳(30歳~94歳)、男70人、女34人であった。術前より高血圧の既往のあるものが45例(43.2%)を占められていた。治療には、まず NTG の点滴静注より開始し、症例によつては、 $\beta$ -遮断剤、ヒドララジンなどを併用した。NTG 以外の薬剤投与を必要としたものは21例(20.2%)であった。全症例において血圧下降がみられ、高血圧発作の治療として有効であり、過度の血圧下降などの合併症は認められなかつた。また、術中心電図を記録した症例のうち NTG 投与により ST に改善傾向のみられたものが12例であった。

術中の出血量を減少させるための人為的低血圧麻酔を目的としたものは、トリメタファンを使用した83例と、NTG 使用の31例であった。

トリメタファンと NTG の両者ともに、良好な低血圧状態が得られた。

トリメタファン使用に対し、NTG 使用は少ないが、脳外科手術で NTG がほとんど使われないこと、NTG が無効でトリメタファンが有効であったものが10例あつたことから、現在ではまだトリメタファンを使用する傾向にあるように思われる。

#### 7. 胆石・胆砂症と慢性肝疾患の関連に関する臨床的検討

(消化器・内科)

○奥田 博明・本池 洋二・斉藤 明子・  
久滴 董樹・大井 至・小幡 裕

(同・外科)

村田 洋子・秋本 伸・高田 忠敬・  
中村 光司・羽生富士夫

胆石が慢性肝疾患に比較的高率に合併するといわれているが、臨床的に胆砂をふくめて検討した。慢性肝炎、

肝硬変確診例でリニア型電子スキャンエコーにより胆のうの検索を行なつた143例につき検討した。慢性肝炎、肝硬変例の胆石、胆砂合併率は慢性肝炎86例中40例46.5%、肝硬変57例中31例54.4%で、後者の方が前者よりもやや高率であつた。男女別にみると慢性肝炎、肝硬変共に胆石、胆砂両者の合併率に性差はみられないが、胆石のみについてみると慢性肝炎では男22.6%、女29.2%、肝硬変では男20.9%、女50%で女性に胆石合併が多くみられた。胆砂は男性の方に高率にみられた。胆砂は若年者に多く、胆石は高齢者に多かつた。手術および剖検の胆石、胆砂合併肝硬変例においては、ビ系石が15例中11例73.3%であり、コ系石は比較的若年、ビ系石は高年層に多く、症状を伴う例はコ系石に高率であつた。肝障害の進行に伴い、胆石・胆砂合併率増加の傾向がみられ ICG ( $R_{15}$ ) と相関を示した。また脾臓の程度と若干相関がみとめられた。肝硬変例において血清胆汁酸コーリルグリシン(CG)及びスルフォリトコーリルグリシン(SLCG)の値をRIA法にて測定した。CGは全例異常値を示し、平均値で比較すると胆石・胆砂合併例の方が非合併例よりもCGが高値で胆砂例の方が胆石例よりもさらに高値であり、その意義については現在検討中である。さらに慢性肝疾患における胆汁生成異常、胆道機能異常との関連について検索中である。

#### 8. 急性呼吸不全における体外循環の基礎的研究(特に静脈一動脈灌流法の送血部位の比較)

(外科)

○里村 立志・木戸 訓一・上辻 祥隆・  
芦田 輝久・鈴木 忠・倉光 秀麿・  
織畑 秀夫

研究目的：近年ガス交換能が優秀で血液有形成分の破壊が少い膜型人工肺が開発され ARDS に対し膜型人工肺を使用した長時間体外循環が行なわれるようになり、臨床で成功例が報告されている。しかし灌流方法、灌流量などに問題が多く、特に酸素加血の血流分布の不均衡は心不全、中枢神経障害を招来する可能性が大きいため、演者は送血部位の相違による血流分布を中心に研究を行なつた。

研究方法：雑種成犬18頭を用いて、静脈麻酔後に調節呼吸を行ない、気泡型人工肺を用いた右心房脱血による90分間の静脈一動脈灌流を行なつた。

第1群は大動脈送血を行なつた。第2群は大動脈送血を行ない、最後の30分間は無呼吸とした。第3群は大動脈弁直上から送血し、呼吸状態は第2群と同様にし